

コラム⑨ 障害のある学生の就労支援

Bさんは、成績優秀で真面目な学生さんです。人よりも敏感なところがあって、大きな音が苦手だったり、一つのことに集中するとまわりが見えなくなったり、耳で聞いたことはあまり覚えていないけれど、目で見たと情報は写真を撮ったように記憶に残るなど、独特な特性がありました。大勢の人が一度に話すと内容が頭に入っていないので、一人や少人数で行動する方が楽だったため、それほどたくさん友人はいませんでした。特に困ることもありませんでした。3年生になり、そろそろ就職活動をと思ってガイダンスに参加したり就職サイトを見ましたが、エントリーシートに何を書いているのか、会社をどうやって選んだらよいかかわからず途方にくれてカウンセリングルームに相談にこられました。おそらく特性があるだろうことは、Bさんと何度か面談するうちにあきらかになってきて、Bさんも自己理解を深めていくうちに自分は人と違うところがあるなと感じていた理由がわかってきました。「特性に応じた就職をしたいのであれば、就労支援機関に相談することもできる」とカウンセラーから聞き、就労支援機関の相談員と話しあって就労体験に行くことにしました。そこで面談や職業体験などを経て、自分にあった職業について考える機会を得、卒業後、就労支援を受けて、クローズ（特性や障害について会社にオープンにせず就職すること）で就職することができました。就職後も仕事に定着できるように時々面談をしてもらうなどの定着支援も受けられたので、今では仕事にも慣れ、後輩を指導する立場で働いています。（註*）

Bさんには障害者手帳を取れるレベルの発達障害がありました。成績は優秀だったので勉強に困ることはありませんでしたが、一度に大勢の人とやりとりをする場面になると誰が何を言っているのかわからず混乱することもしばしばでした。でも興味のあることには人並み以上の集中力があるし、文字を書くと誤字脱字が多いけれども数字はほとんど入力ミスがありませんでした。このような特性は、マルチタスク（複数の作業を同時に実行すること）を必要とする営業職などには向きませんが、細かい作業を一人で集中して行うような仕事には向いています。以前は卒業してからでないと就労支援を受けられないところがほとんどでしたが、最近是在学中も就労支援や就労体験ができるような支援機関も出てきています。特性のために就職できないのではという不安のある人は、一度キャリアセンターかカウンセリングルームにご相談ください。

（註*）実際の事例をいくつか複合して創作した複合事例です。特定の事例をもとにしたものではありません。